



石川県原爆被災者友の会事務局長 西本多美子さんのお話が本になりました

広島に原爆が落とされたのは、西本さんが4歳のとき。男の子の「B29だ！」のひと声に命を救われた西本さんとお母さん。その後、奇跡的に家族全員との再会を果たしますが、被爆で苦しむ人、家族を亡くした人、疎開先で苦勞するお母さんの涙を見ながら広島で育ちました。

今、被爆者の平均年齢は80歳に近づいています。既に多くの方が亡くなり、当時の記憶が鮮明な方は、病気や高齢のため証言活動をするのが難しくなってきました。そうしたなか、西本さんのような幼児被爆者が、被爆証言を受け継ぎ、語り継いでいく時代になっています。

西本さんは、たくさんの方の被爆証言を読み込みながら、断片的に残る自身の被爆体験をつなぎ合わせ、証言活動をされています。また、被爆者の指定医療機関を増やす取り組みや被爆者健康手帳の取得、原爆症認定のために奔走されています。本書では、そのような西本さんの半生と想いが、西本さんの語り口調をそのままに、生き生きと綴られています。

- 本書は、平和サークルむぎわらぼうしのメンバーが西本さんのお話を文字起こし、編集し、イラストを描きました。本書をつくる作業そのものが、被爆者の証言と想いを受け継ぐ活動であり、本書を多くの人に読んでいただくことが、被爆の実相をひろめ、被爆者運動を受け継ぐ取り組みとなります。
- 本書の売り上げの一部は、石川県原爆被災者友の会の「2015年 NPT 再検討会議国際要請行動」への派遣募金に充てられます。

西本多美子さん 広島市出身。石川県原爆被災者友の会事務局長。4歳のときに広島で被爆。自らの体験だけでなく、多くの被爆証言を受け継ぎながら、県内にとどまらず、国内外で講演、被爆証言を行うなど被爆の実相を伝える活動を続ける。核兵器の廃絶と原爆被災者への国家補償を求めて国に働きかける一方、県内被災者の原爆症認定支援にも精力的に力を注ぐ。

注文書

FAX 076-231-5156 (核戦争を防止する石川医師の会宛て)

『広島のパカ-たみちゃん4歳の記憶、そして被爆者運動へ』

注文者名	
住所	〒 _____
電話番号	
注文数	冊 (1冊500円・送料別)

※代金は、本書に同封する郵便払込取扱票からご入金ください。

A4判 / 46頁 / 頒価 500円 (送料別)
2014年10月19日、第3刷発行
発行 平和サークルむぎわらぼうし

取扱い 石川県原爆被災者友の会
〒921-8145 石川県金沢市額谷 3-123
TEL/FAX 076-298-2487

核戦争を防止する石川医師の会
〒920-0902 石川県金沢市尾張町 2-8-23
太陽生命金沢ビル8階(石川県保険医協会内)
TEL 076-222-5373 FAX 076-231-5156



イラスト かるべめぐみ

『広島のパカーたみちゃん4歳の記憶、そして被爆者運動へ』は、2013年4月7日に開催した平和サークルむぎわらぼうし 330 回例会「ヒロシマ原爆ひばくしゃのお話をきく会」における西本多美子さん(石川県原爆被災者友の会事務局長)の講演内容を西本さんに加筆・修正いただき、平和サークルむぎわらぼうしが編集したものです。(イラストは画家・かるべめぐみさん)

<目次>

企画した経緯と、西本多美子さんの紹介

1. 高齢化する被爆者

- ◇ 幼児被爆者が、被爆証言を受け継ぎ、語り継ぐ時代に
- ◇ 「フクシマ」につながる被爆者運動

2. 戦時中の暮らし

- ◇ 「日本のベニス」と呼ばれた水の街
- ◇ 警沢は敵、欲しがりません勝つまでは
- ◇ 空襲をまぬがれた軍都、広島

3. 狙われた広島、8時15分

4. 8月6日、原爆投下の日

- ◇ その日、家族は
- ◇ 男の子の一声に命を救われて
- ◇ 病院に行くも、引き返す
- ◇ 生死の分かれ目

5. ブドウ畑で過ごした三日三晩

- ◇ 家族全員との再会
- ◇ 飢えを救った青いブドウ
- ◇ 大火傷の女学生

6. 熱線と爆風、そして放射線

- ◇ 地獄と化した広島
- ◇ 死体で埋め尽くされた焦土
- ◇ 坪井直さんの話
- ◇ 急性症状が出始める

7. 戦後の暮らし

- ◇ 居候暮らしと母の苦勞
- ◇ にわか作りの長屋暮らし

8. 現在も続く放射線の被害、そして国との闘い

- ◇ 原爆症の認定を求める運動
- ◇ 困難を極める証人探し
- ◇ 差別との闘い
- ◇ 原爆と原発の廃絶を！

<質疑応答>

<資料>

1. 原爆症認定制度とは
2. 厚生労働省が定めた原爆症認定基準
3. 広島市の旧地図
4. 『あたらしい憲法のはなし』より抜粋
一戦争の放棄

今だからこそ、あらためてひばくしゃの声をききませんか。

ヒロシマ原爆ひばくしゃのお話をきく会

とき：2013年4月7日(日) 10:00~12:00 参加費：300円
 ところ：近江町交流プラザ(いちば館)4F集会室
 お話：西本多美子さん(石川県原爆被災者友の会事務局長)
 主催：平和サークルむぎわらぼうし

むぎわらぼうし
例会330回目!

西本多美子さんプロフィール

広島市出身。4歳のとき広島で被爆。自らの体験だけでなく99人の被爆証言を受け継ぎながら県内に留まらず国内外で講演、被爆証言を行うなど被爆の実相を伝える活動を続ける。核兵器の廃絶と原爆被爆者への国家補償を求めて国に働きかける。広島県内被爆者の原爆症認定支援にも熱情的に力を注ぐ。

平和サークルむぎわらぼうしプロフィール

1985年夏、金沢市民劇場特別企画、女優たちによる朗読劇「この子たちの夏」1945ヒロシマ・ナガサキ(地人会)を親て心を動かされた有志達が翌年の同朗読劇の自主上演にむけて集まったグループ。(自主上演を14回続ける。)

86年以降月1回ずつ例会をもつ。(足かけ28年。今回で通算330回目)例会は「民主主義を大切に」「人間の尊厳を大切に」「人権と平和を大切に」の3本柱をテーマに学ぶ。入会退会自由。日々のくらしの中で楽しく平和を学ぶことを目的とする。

※関心のある方はぜひどうぞ！特に予約申込など必要ありません。参加ご希望の方は当日会場までいらして下さい。

今一度あらためて、しっかりと原爆のひばくしゃのお話を聴きたいと思いました。

私は2011年3月11日の東日本大震災と、福島第一原発の爆発をうけて「生死、原発問題、放射能と向きあってどう生きるべきか」と、以前よりもっと深く感じ考えてつもりな感じが...

増々わからない事だらけなのです。うわっ！でもだからといって、立ち止まるのもいやなのです。

そんな気持ちが重なり、今回の会を企画してみました。原爆被災者のお話を聴くことは、今後の福島のことを思うに当たり、参考になると信じているからです。

現実問題として被災者の方も高齢化が進み、徐々にお話を聴き取れる機会も減ってきています。なのでぜひこの貴重な時間をみなさんと共有したいのです。

この会の主催は「平和サークルむぎわらぼうし」です。このグループは25年以上にわたり毎月一回地道に社会問題、平和問題に関する勉強会をひらいています。私にとって大切な生きるための勉強の場です。ぜひこの機会に「むぎわらぼうし」のことも知ってください。

平和サークルむぎわらぼうし

平和サークルむぎわらぼうし 330 回例会「ヒロシマ原爆ひばくしゃのお話をきく会」の案内チラシ



本誌企画
かるべめぐみ
(2013年画家)